

特集 地域に支えられている「フレンズ祭り」

日赤下馬出張所東分団の方々

日赤奉仕団下馬出張所東分団の方々とは、フレンズホーム開設当時からの付き合いになります。当時は、布のオムツたたみのお手伝いを交代でして下さっていました。その後、盆踊り大会や災害時の防災協定等でも大変お世話になっております。

「フレンズ祭り」で焼きそば作りをして下さっている鈴木京子さんは「おいしいとってくれるのがうれしい」とのこと。焼きそばは毎年大繁盛で、鈴木さんがお昼ご飯を食べるのも、お祭りが終わった後になってしまいます。また、リサイクルの販売では、前日の大量の品物の値付け作業が大変とお話でした。

東分団の皆さんは、自治会主催の「桜祭り」、区主催の「環境フェスタ」、日赤主催のバザー、応急救護講習会等の年間の活動がある中「フレンズ祭り」にも関わって下さっています。分団長の三村さんは「フレンズホームがあるから、1年を通してさらに活動が広がって、他の分団と比べて皆仲がいいのよ」と地域の中核の一つとしてフレンズの意味を教えてくださいました。(M)



フラダンスのキヌ中丸会の方々。手作りの衣装で踊って下さいました。



バックがお買い得よ!



1階部分では、毎年生活クラブ生協の方々がおいしい肉まんや牛乳、などを販売。品質の良さが光っています。今年は、骨密度の計測をして下さいました。



ガーディナーひまわりの皆さん

フレンズホームでの、楽しい園芸ボランティア活動をして18年位になります。今では、ボランティア仲間も病気をしたり、忙しかったりでなかなか顔を会わせる機会がありません。

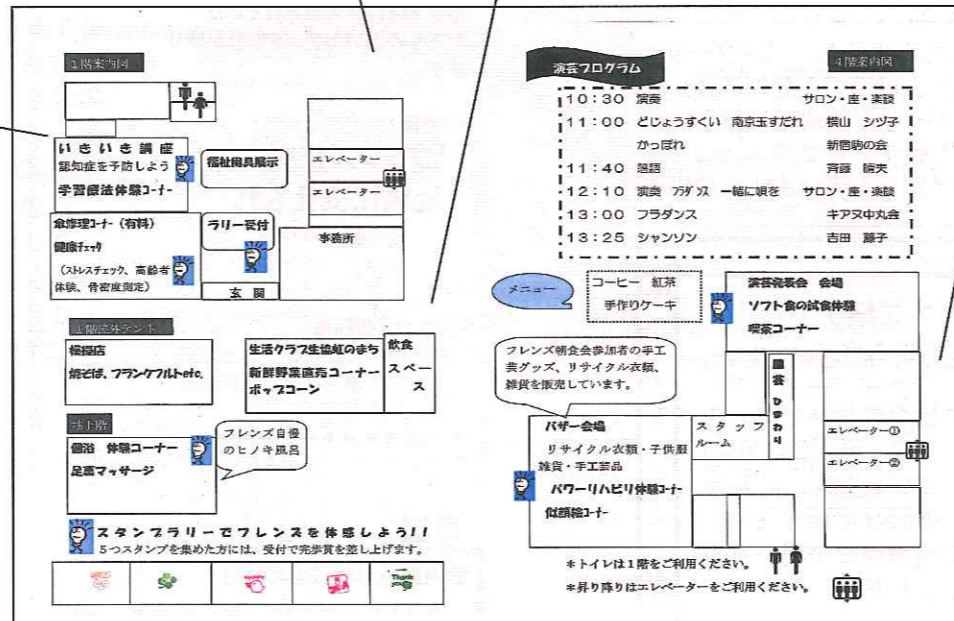
でも、1年に1度のフレンズ祭りには、皆で参加する事にしています。今年で14回目になります。参加する事でフレンズの利用者さん、フレンズのスタッフさん、ボランティアさん、地域の方にお会いし情報交換する事で、私達にとって素晴らしい学びと、前向きに頑張らなくては等々、人と人との繋がりの大切さを再確認できるお祭りです。

毎年、趣向を凝らしたお祭り、フレンズスタッフの皆さんのご苦労は大変だと思います。私達や他の皆さんもとても楽しみにしていますので、来年も皆で頑張りたいと思います。

ガーディナーひまわり 須藤 和代



ガーディナーひまわりの皆さんも喫茶コーナーにてご歓談。



下馬二丁目北町会の皆さん

およそ2,400世帯、6,000人が生活を営む都営住宅。その中で50年余りに渡り町会活動を行っているのが、下馬二丁目北町会である。

フレンズ祭りとは下馬二丁目北町会との関わりは、平成17年(※第6回フレンズバザー)のフレンズバザー委員会に遡る。

町会長、副会長にフレンズバザー外部委員を委嘱。以来、町会を挙げてのフレンズバザー開催案内や献品依頼のチラシ配布、模擬店用器材の貸与や駐車場のテント張り、当日の宣伝カーの運転など、長年、多岐に渡りフレンズバザーをバックアップしていただいている。

昭和36年から副会長を務める田村久直氏は、「町会の役割は、住民が安心して住める町づくりだと思う。フレンズ祭りをサポートすることで、福祉の現場から沢山の事を学べている」と話して下さいました。

「今年の祭りも良かったけれど、次回のフレンズ祭りをもっと盛大にするにはどうした良いか考えなくちゃね」田村副会長は、早くも来年のフレンズ祭りを思い描いているようだ。

フレンズにとって、なんとも頼もしい町会である。(H)

田村さんは、フレンズ祭り当日の朝、知人の畑に朝採り野菜の仕入れに行くため、トラックに乗込みます。新鮮な野菜を毎年ありがとうございます!



駒沢大学ボランティアサークルの皆さん

毎週金曜日に駒大ボランティアの方々がお来所し、紙芝居や歌、天気の良い日は入居者の方々と外へ買い物や散歩に行ったりと、入居者の方々を楽しませてくれています。フレンズ祭りにも来ていただき、バザー等の手伝いも積極的にして下さいました。そんな駒大のみなさんからフレンズ祭りに参加した感想をお聞きしました。

- ・バザーの補助をやって緊張しましたが、入居者さんにありがとうと声をかけていただいたり、喜んでくれたので嬉しかったです。
 - ・地域の方々と交流がある事は、とてもよいと思ったし大事なことだと思った。
- 次回のイベントはクリスマス会です。今から楽しみです。(T)



100歳おめでとうございます! フレンズ元気印の方々

中村 まさ様

2階のエレベーターが開くと、目の前の肘かけ椅子に座り、足を横に備えつけてある手摺に向かって、上へピンと伸ばしている姿は、とても100歳には見えません。始めて見る人は、一様にびっくりし、歳を聞いて二度びっくりします。

フレンズホーム在籍22年、開設からの入居、まだまだ元気にお暮らします。元気な源は、やはりこだわりの食習慣、朝食には必ず、すりおろしの生玉葱と人参・葉葱、そして卵、お粥は傾けた時に水は出てはいけなと断言し、これが続く「栄養士さん呼んで〜」とお叱りを受けます

が、そのおかげでフレンズホームのお粥はふくらまして離水させません。

施設長を親分と呼び、用事を思い出せば1階に会いに行き、そしてご自分より年下の「親分」の健康をとて心配して、「大丈夫?」を忘れません。

まささん、まだまだお元気で、フレンズ元気長寿記録を更新してくださいね。(栗原)



2010年12月9日上野国立博物館「東大寺大仏展」で。案内役は施設長。

岡村 ヨシ様

2月10日で100歳を迎えられました!

小柄でかわいらしいおばあちゃん、たくさん飾りを付けたカートを押してどこまでもスイスイ〜と歩いてく!今でも、とてもお元気で自立されていることが多く、なんとご自分で個浴に入られます!!こんな元気なおばあちゃん見たことがありません!!

そしていつまでも乙女心を忘れず、鏡の前ではしっかりと身だしなみを整えたり、ご家族からいただいたきれいなバッグを大事に持っていたりと、実はフレンズの中でもおしゃれさんなのです!

来年の101歳のお誕生日もきれいに祝って、みんなで盛大に乾杯しましょうね!(K)



恩村 アイ子様

10月1日で100歳を迎えられた恩村さん。とてもお元気で、毎日手押しカートを使ってご自分でしっかりと歩かれているお姿を見ると私達も自然と元気が湧いてきます。スタッフの声かけにもいつも穏やかな笑顔で答えて下さり、その笑顔に癒されている私達です。

北海道ご出身で、若い頃はスキーをされていたとのこと。「今はできるかわらんけどなあ。」と和やかに話をしてくれていました。また、恩村さんは若い頃から1日1袋のアメをあっという間に食べられていたそうです。元気の源は、現在もアメでしょうかね!?これからもお元気で過ごして下さい。(I)



巻頭文は、お亡くなりになった 中村まさ様の追悼文に、急遽差し替えさせていただきました。